

KEIZAIREN 情報9

● 2020.09 ● NO.1272

安全・安心・新鮮でおいしい静岡県産の農畜産物をお届けします。

JAの経済事業強化に取り組む

「JA支援課」



第19回静岡県なし果実品評会



花と野菜の販売会



静岡コシヒカリ

Main topics

JAの経済事業強化に取り組む「JA支援課」…01

topics&news

地産地消を呼びかけ

玉露の里で販売会を開催 ……………03

品種選定試験を実施

三方原馬鈴薯品種試験食味審査会……………03

茶生産者と茶商の意見交換会

静岡県茶業青年団・茶生産青年会意見交換会…04

工事の安全を祈願

大井川肥料工場事務棟建設工事起工式…04

従業員への福利厚生でJAタウンを利用

(株)エンチャーへ利用お礼の訪問……………04

後継者の育成

第2回静岡県柑橘担い手セミナー……………05

生産技術の向上を図る

イチジク静岡県内園地巡回 ……………05

品質向上による販売強化を

第19回静岡県なし果実品評会 ……………05

営農支援だより

“産地の顔”づくりを ……………06

最新研究紹介 農林技術研究所だより

高糖度・高機能性トマト

栽培システムの開発と実用化 ……………07

お知らせ

テレビ番組「しずおかごはんが食べたい!」のご紹介 …09

JAタウン しずおか「手しお屋」のおススメ商品 …09

建設部からのINFORMATION……………10

あぐりんく静岡からのお知らせ ……………10

Main topics

J Aの経済事業強化に 取り組む「J A支援課」

I はじめに

本会は、令和2年度をスタートするにあたり、「新時代への挑戦、農業の飛躍・経営の革新」を旨として「J A静岡3か年計画」を策定しました。同時に、この計画を円滑に進めるため、機構改編を実施し、新設の部が2部、新設の課が6課誕生しました。その中から、今回は、新しく生まれた「J A支援課」をご紹介します。

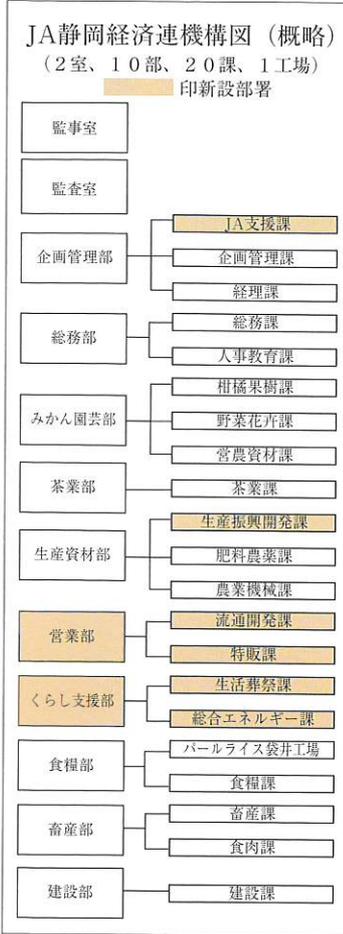
II J A支援について

J A支援課は、企画管理部次長兼

課長を筆頭に職員3人の計4人で構成され、内1人は東部地区合併準備室駐在となっています。主な業務は、「J A営農経済事業への支援に関する業務」「J A合併に関する業務」「J A間事業連携に関する業務」「J A支援に関する業務」の4つです。また、業務「拠点型



全農主催JA支援全国TV会議



購買店舗に関する業務」「自己改革に関する業務」です。

全農では、「農家対応力強化」「産地づくり」「物流合理化」「拠点型事業の一体運営」などがJ A支援と位置付けられています。

J A支援課では、全農が主催する会議に参画し他県の手法を学びながら各方面と連携して取り組みを行っています。

III J A支援課の業務

(1) J A営農経済事業への支援

J A支援課は、「J A支援・経済事業の成長・効率化プログラム」に取り組んでいるJ Aに各支所と連携し支援を行っています。「J A営農・経済事業の成長・効率化プログラム」とは、第28回J A全国大会議案において、J Aが将来にわたって持続可能な経営基盤を確立するための施策として「J A経営基盤強化」が掲げられており、その実践支援として全



JA営農経済部長会役員会

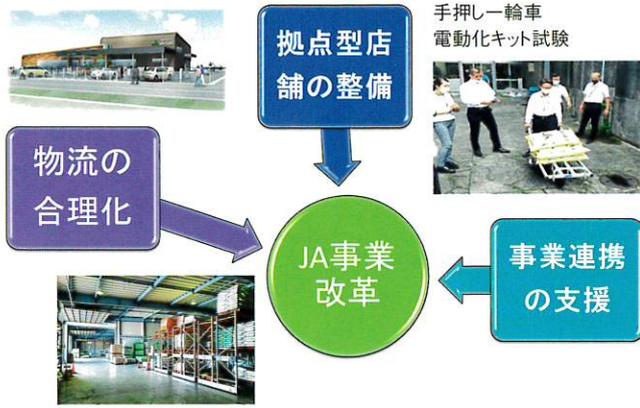
(2) J A合併に関する業務

東部地区合併準備室に職員が1人駐在し、合併に向けた様々な営



中・全農・農林中金が連携して行っているものです。本県では、平成31年1月からJ A遠州夢咲が全国のパイロット版として開始され、続いてJ A伊豆の国、J Aハイナが課題解決への実行フェーズに入っています。令和2年度では7月よりJ A遠州中央で取組みが開始され、以降本年度内にと2J Aでの実施が予定されています。

また、県下J A営農経済事業の情報共有のためJ A営農経済部長会を組織し、その事務局を担っています。



農経済事業に関する各会議体に参加しています。東部地区8JAの合併予定日は、令和2年4月に開催された合併委員会において令和4年4月1日とされました。各会議での意見・課題について、駐在職員から関係部署に報告し、関係部署からの提案事項の調整を図っています。



JA支援研修

(3) JA間事業連携に関する業務

中西部地区5JA(大井川、ハイナン、掛川市、遠州夢咲、遠州中央)において、JA域を超えた事業連携について検討がされています。

検討は、3作業部会(販売・購買・茶)を構成して行われ、販売作業部会ではファーマーズの連携が調定され、購買作業部会では肥料銘柄集約とあわせ共通肥料3銘柄を経済連より提案し各JAの注文書に掲載されることとなりました。

茶については、茶技術員の育成と荒茶販売事業の改善に取り組みます。JA支援課では、中・西部支所及び関係現業部署と共にJA横断的な事業提案をすすめています。

(4) 物流合理化に関する業務

物流合理化に向けた、システム導入の検討を関連部署と行っています。

具体的には、物流センターへの倉庫管理システム(WMS)とデジタル分荷システム(DAS)の導入に向けた検討を始めました。DAS導入により、現状分析と試験運用の実施等、先進事例の構築を目指しています。

また、受注から配送まで物流全体の効率化を図るため、県内外の事例を参考にWEB発注システム導入やRPAなどの事務合理化に

ついても検討を進めています。

(5) 拠点型購買店舗

JA全農が取組みを行っている拠点型店舗などを参考に、モデルJAを選定し、新たな拠点型購買店舗の在り方の検討を共に行っています。

検討会では、組合員のニーズを考慮しながら2極化が進む農業者の状況に合わせた店舗フォーマットづくりを行っています。

また、関係する各部署からなる「収支均衡プロジェクト」を経済連内に設置し、それぞれの立場からの意見なども聴取しながら検討を進めています。



JA全農長野県本部から資材店舗運営を学ぶ

(6) 自己改革

平成27年からの「農協改革集中推進期間」は、令和元年5月で満了となり、「JAグループの自己改革は進展している」との評価がされました。不断の自己改革の実践を支えるためには、持続可能なJA経営基盤の確立・強化が求められ

ています。

これまでの、自己改革の取組みをもとに、令和2年度事業計画を進め、改革を継続してまいります。また、業務の効率化のひとつとして、定型的な事務作業を自動化することを主とした、RPA(Robotic Process Automation)の研修会を開催し、実用化に向けた取組を行っています。



JA支援課



RPA(Robotic Process Automation)研修

地産地消を呼びかけ 玉露の里で販売会を開催

7月23日、中部支所みかん園芸課は藤枝市岡部町の道の駅「玉露の里」で、農産物の即売会「お花と野菜のマーケット in 玉露の里」を開きました。新型コロナウイルス禍でイベント等の自粛により消費が低迷している花きや野菜の販売を支援することが目的。販売会は、来客者への検温実施や手指消毒、マスク着用やソーシャルディスタンスを呼びかけるなど新型コロナウイルス感染症予防対策を十分に実施して行われました。



当日は、JAおおいがわ、JAハイナン、JA静岡市、JAしみずからバラやガーベラ、オンシジウムなどの花きと、わさびや枝豆、葉しょうがなどの野菜を販売し、販売開始直後から多くの来店客で賑わいました。中部支所みかん園芸課の川井昌広課長は「新型コロナウイルスの影響で外出自粛が続く今こそ地元の方々に静岡の花や野菜を楽しんでもらえるよう、地産地消を呼びかけたい」と話しました。同課は今後も継続して販売会の開催を検討しています。

品種選定試験を実施 三方原馬鈴薯品種試験食味審査会

7月7日、西部支所みかん園芸課と生産振興開発課は、JAとびあ浜松三方原研修会館で、三方原馬鈴薯品種試験食味審査会を行いました。審査会には生産者、県やJA職員、本会担当者らおよそ20人が参加しました。三方原馬鈴薯ブランドで販売している男爵薯は、シストセンチュウ抵抗性を持たず今後種いも供給が見直されることを受け、代替品種を検討することが目的。



当試験は、静岡県産地技術課題解決研究会（事務局・生産振興開発課）の「地域特産振興のための担い手支援・組織強化事業」の一つとしても実施されました。食味試験の馬鈴薯は、JAとびあ浜松管内生産者の畑で、対照となる男爵薯を含め7品種を試験栽培し5月に収穫したものを使用しました。参加者は、蒸かし芋と煮物の2種類の方法で調理されたイモの食味、食感、風味などの基準で投票しました。今回得られた結果から今後試験する品種を絞り込み、来年度以降も継続して選定試験を行っていきます。

茶生産者と茶商の意見交換会

静岡県茶業青年団・茶生産青年会意見交換会

7月29日、茶生産青年会（事務局・茶業課）は県農業会館で、静岡県茶業青年団・茶生産青年会意見交換会を開き、茶生産青年会と茶業青年団、県やJA職員、本会担当者らおよそ30人が参加しました。茶価低迷の影響で生産者が厳しい状況の中、継続して茶生産を続けるため、茶商や茶関係者との意見交換会で関係者間の考えを共有することが目的。

意見交換会に先立ち、本会茶業部長より令和2年度一番茶・二番茶の情勢報告と消費動向について、県お茶振興課から本県茶業振興策について、茶業会議所からしずおか茶需要拡大事業について等説明が行われました。その後茶生産者と茶商間での意見交換が行われ、茶生産青年会長からは茶生産現場の厳しい実情について、茶商青年団からは近年の小売りの情勢や求めるお茶について説明されました。また、茶商青年団から提案された「寄付型シール付静岡茶販売プロジェクト」について、本会は協力を約束しました。茶生産青年会では、今後も継続的に意見交換会を実施する予定です。



工事の安全を祈願

大井川肥料工場事務棟建設工事起工式

7月9日、本会は焼津市の大井川肥料工場で、新事務棟建設工事の起工式を執り行いました。起工式には本会加藤敦啓代表理事理事長をはじめ関係役員と施工業者等が参列し、工事の安全を祈願しました。工事の設計監理は本会一級建築士事務所が行います。

新しい事務棟は、旧事務棟の老朽化に伴い建て替えをするもので、既存の土壌肥料分析センターと工場作業員詰所を集約します。新設される分析室には新しく土壌診断の機器類を導入し受託体制を強化します。新事務棟は令和2年12月末に完成し、完全稼働は令和3年4月を予定しています。



従業員への福利厚生でJAタウンを利用

株エッチョーへ利用お礼の訪問

7月21日、流通開発課は、富士市の株エッチョー本社で、遠藤秀男代表取締役社長を訪問しました。株エッチョーが新型コロナウイルス禍での従業員への福利厚生として、本会JAタウン「手しお屋」の商品をご利用いただいたことへのお礼と実績の報告が目的。

静岡県産和牛や野菜詰め合わせ、本会みかんジュース「ぎゅつとみかん」など計10品が商品として採用され、株エッチョーグループの従業員（アルバイト含む）およそ1,700人へJAタウンを通じて商品が届けられました。JAタウンでは、従業員への福利厚生や各種商品等の業務用での利用が可能です。詳細についてお問い合わせは流通開発課（TEL054128419728）まで。



後継者の育成を

第2回静岡県柑橘担い手セミナー

7月9日、本会（柑橘果樹課）は、静岡県農林技術研究所果樹研究センターで「令和2年度第2回静岡県柑橘担い手セミナー」を開き、後継者やJA職員ら23人が参加しました。本県柑橘産業の永続的発展を期すため、将来を担う後継者を対象に、柑橘産業をとりまく諸課題の研修を行うことが目的。

セミナーでは、静岡県果樹研究センター研究員より柑橘病害虫の生態と防除、本会吉川公規コンサルタントより摘果の方法について研修しました。雨天のため摘果の実習は中止しましたが、セミナー終了後に参加者は本会庵原圃場を視察しました。



生産技術の向上を図る

イチジク静岡県内園地巡回

7月20日、静岡県落葉果樹振興協会（事務局・柑橘果樹課）は、県西部地区で「イチジク静岡県内園地巡回」を開き、生産者、JAなどおよそ30人が出席しました。イチジクの生育状況や栽培方式を確認し、生産技術の向上を図ることが目的。

園地巡回は、JA遠州中央とJA掛川市の管内3か所のイチジク園で行われました。各園地では、生産者とJA担当者が産地概要を報告し、参加者は現地イチジク園の栽培状況などを確認しました。



品質向上による販売強化を

第19回静岡県なし果実品評会

7月31日、静岡県落葉果樹振興協会（事務局・柑橘果樹課）は、藤枝市のJA大井川農産物集出荷場で、「第19回静岡県なし果実品評会」を開きました。静岡県産なしの生産技術向上を図ることが目的。今回の出品点数は24点で、静岡県農林技術研究所果樹研究センターの瀧義明センター長が審査長を務め、担当研究員や農林事務所職員ら審査員8人が、形状や玉ぞろい、色沢などの外観、肉質や食味などの内容を審査しました。



出品物の平均糖度は12.0度、最高糖度は13.4度でした。上位入賞者は次のとおり（敬称略、カッコ内はJA名）。

- 金賞 大畑延男（大井川）
- 銀賞1 曾根健治（大井川）
- 銀賞2 大畑誠（大井川）
- 銀賞3 平岡勝彦（しみず）
- 銅賞 法月和芳（大井川）
- 大畑守（大井川）
- 大畑里志（大井川）
- 西尾敏弘（大井川）

高糖度・高機能性トマト 栽培システムの開発と実用化

私が紹介します！



農林技術研究所
次世代栽培システム科
研究統括官兼科長
大石直記

一 はじめに

静岡県産のトマトは、イチゴ、温室メロンに次ぐ三番の産出額を誇り、その品質の高さが全国的に評価されています。中でも、桃太郎等の大玉品種を給液制限しながら栽培する高糖度トマトは、今や静岡トマトの代名詞ともなっています。さらに、民間事業者を中心にミニトマトやミディ（中玉）トマトでも高糖度化を狙う試みが少しずつ拡大しています。今回は県が推進するAOPプロジェクトの一環として開発した「美味しく健康に良いミニトマトの養液栽培システム」をご紹介します。

二 高糖度・高機能性トマトとは

ミニトマトに限らずトマト果実の糖度を高めるためには、給液制限

等により水分欠乏の状態での栽培する必要があります。水分欠乏になると①果実含水率の低下、②果実への糖蓄積の促進、が起るためとされます。

一方、トマトの機能性成分としては、リコピンやGABA（γ-アミノ酪酸）が知られています。中でも、GABAは血圧を下げる効果やスト

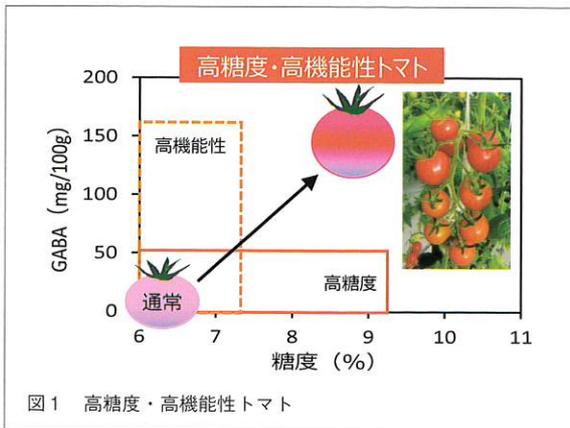


図1 高糖度・高機能性トマト

レスの緩和効果があるとされ、機能性表示の事例も多く付加価値の向上が期待されます。

こうしたことから、これまでの高糖度に加えて高GABAを両立できれば、美味しく健康に良い新たなトマト商品が誕生する可能性があります（図1）。

三 ポット栽培と自動給液で安定化

高糖度・高機能性トマトの安定栽培には、①給液制限を行い常に水分欠乏の状態にすること、②過度な水分不足が生じる前に給液し水分欠乏を緩和すること、がポイントとなります。

①については、県内の高糖度トマト栽培でも活用されているポット式養液栽培を採用しました（写真1）。本方式は少量の培地（ヤシガラ、約600mL）をポットに詰め、各



写真1 ポット栽培の状況

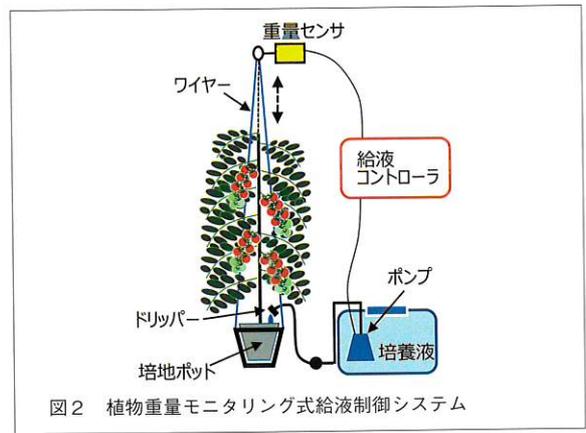
ポットにドリッパーをつけて培養液を供給するもので、確実かつ継続的な水分欠乏が生じ、しかも生育のばらつきを防ぐことができます。なお、培地の充填作業の不要な少量固形培地（育苗用）の利用も可能です。

②については、植物重量モニタリング式給液制御装置を用います（図2）。本装置は基準とするトマト1株をつり下げて、植物重量（株十増

地)を連続計測し、蒸発散に伴う重量減少の程度に応じて給液をコントロールします。

実際には、朝一番の給液直後の植物重量をその日の基準重量とし、相對植物重量(%)が給液開始点(S P)を下回ると給液が始まります。また、その時の給液量は給液直前までの重量減少程度を基準に自動決定します。

過度な水分欠乏が発生する前のSPを事前に把握し設定すれば、栽培期間を通じて過度な水分欠乏が起りにくいリアルタイムの給液管理が可能となります。



四 冬作での栽培結果

10月定植の作型で栽培試験を行いました(品種・シンデイスイート、摘心・7段果房、栽植密度・3000株/10a)。本試験は給液制御装置によって日々の給液のタイミングと給液量を自動決定して行いました(写真2)。その結果、トマトの平均果重は、1段果房が約20gで上段果房ほど減少する傾向がみられました(図3)。

一方、糖度は1段果房が8%代でしたが、収穫果房の上昇に伴って上昇し、7段果房では12%に達しました。

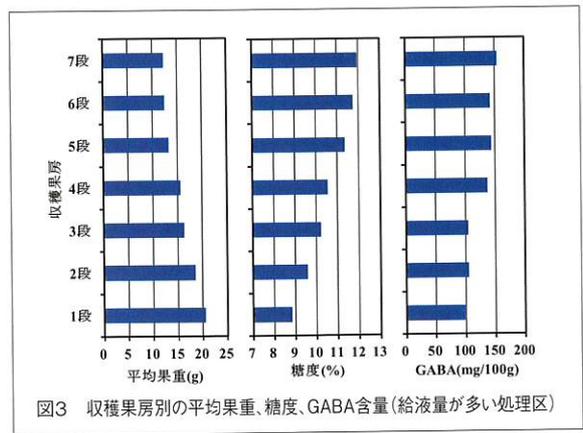


図3 収穫果房別の平均果重、糖度、GABA含量(給液量が多い処理区)

た。さらに、GABA含量は1段果房から約100mg/100gに上昇し、7段果房では150mg/100gを超えました。この含量は一般トマトの2〜3倍に相当します。なお、本試験と同様な夏作でのGABA含量は180mg/100gを示す事例もみられ、高GABAトマト生産の可能性が示唆されました(写真3)。

また、本試験栽培における可販果収量は4.5t/10aで、年2.5回の作付けができれば、10t/10a以上の収量が見込まれます。従来、過度な水分欠乏の発生により長期間



にわたる高糖度トマトの栽培は困難とされましたが、ポット栽培に適した自動給液制御を組み合わせることで、極めて安定的な栽培が実現しました。

五 おわりに

開発した栽培システムによって、糖度・機能性成分・収量の両立、もしくはニーズに応じた品質コントロールの可能性が示されました。

本栽培システムは、今年度県東部地域に試験導入される予定であり、生産現場での検証を通じてさらなる改良を行い、広範な普及を目指します。

連絡先 沼津市西野
静岡県農林技術研究所
次世代栽培システム科
agrijisedai@pref.shizuoka.lg.jp

テレビ番組「しずおかごはんが食べたい!」のご紹介

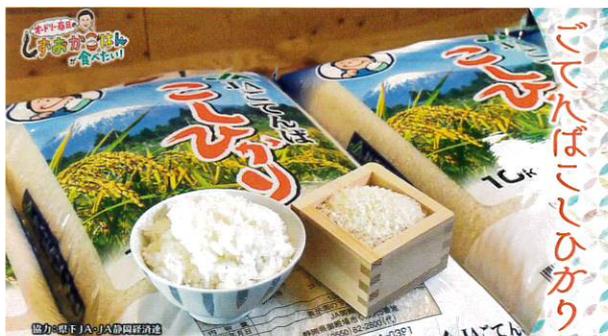
食糧部は、今年7月から来年3月まで、月1回放送されるテレビ番組「しずおかごはんが食べたい!」(テレビ静岡)の番組制作に協賛し静岡県産米のPRを行っています。この番組ではお笑い芸人のフォーリンラブ・バービーさんとオードリー・春日さんが月替わりで出演し、県内を散策しながら地元グルメとお米を紹介しています。第2回目の放送となった「御殿場」編では、JA御殿場の直売所「ファーマーズ御殿場」や焼肉店「御殿場肉処くら」などで収録が行われ、出演者は「御殿場コシヒカリ」と一緒に地元のグルメを紹介しました。今回出演予定だったオードリー・春日さんは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、東京からリモートでの出演となってしまいましたが、リモート先で「御殿場コシヒカリ」を味わい、静岡県産米の美味しさをPRしました。次回、第3回目となる放送では島田・藤枝エリアから「金芽米」を紹介予定です!放送は9月19日(土)夕方5時から30分間です。番組をぜひご覧ください!



担当:食糧部 食糧課 (TEL:054-284-9737)



▲オードリー・春日さんは東京のスタジオからリモート出演 (JA御殿場ファーマーズマーケット)



▲第2回の放送ではJA御殿場「ごてんばこしひかり」を紹介

JAタウン

しずおか「手しお屋」のオススメ商品

JAタウン手しお屋ショップから
この時期オススメの商品を
ご紹介します♪

令和2年産新米「静岡コシヒカリ」

今年も新米の季節がやってきました!今回は、静岡で愛情たっぷり育てられたお米「静岡コシヒカリ」の新米をご紹介します。

「静岡コシヒカリ」は、本州で1、2を争い早く収穫されるコシヒカリです。8月中旬以降から収穫が始まり、新米として販売されます。コシヒカリは甘みと粘りが強く、つやや香りも良いことが特徴で、県内において最も多く生産されている品種です。ふるさとの恵みあふれるお米「静岡コシヒカリ」を、県外にお住まいのご家族、ご親戚への贈り物としていかがでしょうか。

商品の詳細やお買い求めは右記QRコードを読み取るか、JAタウン手しお屋で検索し商品ページをご確認ください♪当ショップでは静岡の旬の農産物を多数取り揃えています!ぜひご覧ください。

担当:営業部 流通開発課 (TEL:054-284-9728)



▲静岡県産「静岡コシヒカリ」
規格:5kg、10kg(5kg×2袋)
価格:5kg3,600円、10kg6,100円



しずおか手しお屋

🔍 検索

▲商品ページQRコード

建設部からのINFORMATION

担当 建設部 054-284-9523

JAしみず

遊休宅地活用の取り組み 戸建賃貸住宅新築工事 地鎮祭

JAしみず組合員 生子様は、所有する遊休宅地活用をJAしみずと本会に相談し、長期的な安定収益を目的とした戸建賃貸住宅による活用を決断されました。

活用検討にあたっては、敷地面積が40坪弱である点、前面道路幅が大

きくない点の2点からテナント誘致や高収益にこだわらず、少額投資および長期的な安定収益を優先事項としました。

地鎮祭以後は本会建設課による現場管理で工物品質確保を行い、本年12月に予定している完成と入居者募集開始に備えます。



▲地鎮祭のようす



▲記念撮影

【営農ナビ】

あぐりんく静岡からのお知らせ

JA組合員限定 農業に役立つ情報が満載!!

ご登録
ご利用
無料

農産物安全分析センター

JA
職員向

分析メニュー、申込書、分析フロー(手順)を掲載しています。分析の際はコチラから!

経済連肥薬通信

更新

経済連肥薬通信9月号

経済連コンサルタントによる作物情報

柑橘果樹情報

茶園からみかん園への転換について情報を掲載しています。

販売情報

市場概況

大田市場、名古屋市場、大阪市場の概況を月曜日、木曜日に更新しています。

●更新情報はメールでお知らせ ●JA職員はイントラから利用できます。(登録不要)

～他にも、農畜産物別の情報や県内JAのニュースなども充実～

担当：生産資材部 生産振興開発課 (TEL 054-284-9729)



あなたの気持ちを、お米に込めて…
もらって嬉しいお米のギフト

メッセージライス
Message Rice

新しい“伝えるカタチ” Message Riceを活用しませんか？



お問い合わせ・ご注文



JA静岡経済連 食糧課
〒422-8620 静岡市駿河区曲金3丁目8番1号

Tel.054-284-9737

Mail : p-rice@kei-ja-shizuoka.or.jp

農協のお米 **パールライス**

